

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地			
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日	千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111			
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地			
学校法人片柳学園		平成25年3月1日	片柳 鴻		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111			
目的	1年次においてはビジネススキルの基礎を学びながら、スポーツイベントに関する企画・から運営について経験します。その後、スポーツイベントの企画・運営経験を通して出てきた問題・課題に対して考察を進め、スポーツビジネスにおける販売促進やマーケティングに関する実践的な思考力を養います。その他、各生徒の希望分野に応じたインターンシップ活動も開始します。2年次においては、小売り、スポーツツーリズムに関する学習を集中的に行い、就職活動を行いつつ、卒業成果発表に向けた準備を進めます。							
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士		
文化・教養	芸術専門糧		スポーツ健康学科 スポーツビジネスコース		平成26年文部科学大臣 告示第7号	-		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	1700	1440	0	1605	0	0	
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数
240 人の内数		260 人の内数		12 人の内数		32 人の内数		44 人の内数
学期制度	前期: 4月1日～9月30日 後期: 10月1日～3月31日			成績評価	成績表: 有 成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S: 90点以上 A: 80～90点 B: 70～79点 C: 60～69点 D: 59点以下は不合格 P: 単位認定			
長期休み	学年始: 4月1日～ 夏季: 8月1日～8月31日 冬季: 12月23日～1月9日 学年末: 3月21日～3月31日			卒業・進級条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること			
生徒指導	クラス担任制: 有 長期欠席者への指導等の対応 担任から電話・メールでの指導。保護者への連絡。場合により後日三者面談の実施。			課外活動	課外活動の種類 卒業作品展、ボランティア活動、体育祭、学園祭 サークル活動: 有			
就職等の状況	主な就職先、業界等 株式会社アルペン 株式会社コロンビアスポーツウェアジャパン ゼビオ株式会社 株式会社東京ドームスポーツ 株式会社ドームヒューマンキャンパス 株式会社メガスポーツ 就職率^{※1} : 96.6 % 卒業者に占める就職者の割合^{※2} : 77.8 % その他 (平成27年度卒業者に関する平成28年5月1日時点の情報)			主な資格・検定等	リテールマーケティング3級(旧販売士検定3級)、簿記検定3級、スポーツイベント検定、J検定、MOS、国内旅行業務取扱管理者			
中途退学の現状	中途退学者 12名 中退率 15.8 % 平成27年4月1日時点におい 在学者 76名 (平成27年4月1日入学者を含む) 平成28年3月31日時点におい 在学者 64名 (平成28年3月31日卒業者を含む) 中途退学の主な理由 ①経済的理由 ②学習意欲の低下 中退防止のための取組 ①個人面談を中心とした個別サポート ②業界理解セミナー・実習によるモチベーションの維持							
ホームページ	http://www.neec.ac.jp/							

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

スポーツビジネス分野に関し、企業等と連携体制を確保してヒヤリングを実施し、実務に関する知識や必要とされる技術等を調査し、授業科目等の開設などカリキュラムを年度ごとに見直す。そのため、学内外の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等をスポーツ関連業界より選定している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、学校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
中山 哲郎	一般社団法人日本ツーリズム推進機構	H28年4月1日～H29年3月31日	①
小川 和彦	藤越衣料株式会社	H28年4月1日～H29年3月31日	③
早坂 俊治	日本文化出版社株式会社	H28年4月1日～H29年3月31日	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	H28年4月1日～H29年3月31日	
中山 敬二	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	H28年4月1日～H29年3月31日	
三樹 春幸	日本工学院八王子専門学校 科長	H28年4月1日～H29年3月31日	
杉浦 晋	日本工学院八王子専門学校 主任	H28年4月1日～H29年3月31日	
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援	H28年4月1日～H29年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催

(開催日時)

第1回 平成28年3月8日 15:10～17:10

第2回 平成28年7月19日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

基本方針に沿って、科目担当者へのフィードバックをし、適宜内容の見直しも実施。学校教員(専任・非常勤)へ講師連絡会等で周知し、科目内容・学生指導への参考としている。クロススポーツマーケティング株式会社との連携により、職業上必要となる最新の知識、技術、技能等を反映した授業計画(プロジェクトアサインメント1)を行い、実施している。教育課程編成委員会からは、昨今の採用動向や業界事情について各参加企業側より意見・提案を頂くとともに、プロジェクトアサインメント1の実施状況に対する感想を伺い、企業側の求める人材像、職業上求められる資格・専門知識、スキルを習得させるためのより効果的な評価項目の選定、授業進行の調整、教育設計図の達成目標等の再確認に活用し、次学期・次年度での授業改善に繋げている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

スポーツビジネス分野に関し、企業等と連携体制を確保してヒヤリングを実施し、実務に関する知識や必要とされる技術等を調査し、授業科目等の開設などカリキュラムを年度ごとに見直す。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

学内外の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による定期的な指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等をスポーツ関連業界より選定している。1年次においてはスポーツビジネスの実践的な課題を実施する上で必要な基礎的な販売促進やマーケティング、地域連携、施設活用等に関する基本知識を学び、課題は連携企業と協議し、学生自身が自主運営できるような課題設定を行っている。2年次においては、クロスマーケティングスポーツ株式会社(ゼビオ社)が実施する「3 by 3バスケットボール.EXEイベントの学内実施」課題を行う。企業から講師を派遣してもらい、オリエンテーション・中間講評・プレゼンテーションに立ち会ってもらい、学生のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力についても指導する。企業課題終了後は、学生の学習評価を踏まえ、改善・工夫について連携企業と協議する。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
プロジェクトアサインメント1・2	スポーツ産業に関わるプロジェクトメンバーの一員として、与えられた目的に対して自分達で考え、実行する。また、座学・実習を通じてスポーツビジネス関連業界についての様々な領域に対する最新動向を理解する。	クロススポーツマーケティング株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- 平成28年3月15日9:00～12:00
 [講師]テクノジムジャパン株式会社 藤野浩也・岡戸昌子
 [内容]新規事業の事例から学ぶ
- 平成28年8月21日10:00～12:00
 [講師]株式会社ドリームビレッジ 村尾正彦
 [内容]チームビルディング

② 指導力の修得・向上のための研修等

- 平成28年3月15日14:00～17:00
 [講師]トランスアクト株式会社 前原恵子
 [内容]学生・保護者との接し方、接遇とコミュニケーション力向上

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- 平成29年3月頃
 [講師]東急スポーツシステム株式会社 原田稔 ※予定
 [内容]キャリアデザイン
- 平成29年9月頃
 [講師]NPO法人アイスフォゲルススポーツクラブ 原田直樹 [内容]インターンシップ・学外実習のための事前指導について ※予定

② 指導力の修得・向上のための研修等

- 平成29年3頃
 [講師]株式会社ワークポート 梶川恭平 ※予定
 [内容]企業が実践する就職相談のノウハウ

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。
 学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2) 運営方針(3) 事業計画(4) 運営組織(5) 人事・給与制度(6) 意思決定システム(7) 情報システム
(3) 教育活動	(8) 目標の設定(9) 教育方法・評価等(10) 成績評価・単位認定等(11) 資格・免許取得の指導体制(12) 教員・教員組織
(4) 学修成果	(13) 就職率(14) 資格・免許の取得率(15) 卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16) 就職等進路(17) 中途退学への対応(18) 学生相談(19) 学生生活(20) 保護者との連携(21) 卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22) 施設・設備等(23) 学外実習・インターンシップ等(24) 防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25) 学生募集活動(26) 入学選考(27) 学納金
(8) 財務	(28) 財務基盤(29) 予算・収支計画(30) 監査(31) 財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32) 関連法令、設置基準等の遵守(33) 個人情報保護(34) 学校評価(35) 教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36) 社会貢献・地域貢献(37) ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などを計画から実施するまでをグループで一貫して行い、今後の学生指導、カリキュラムの設定に反映させる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	卒業生/IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	地域関連
北尾 雄一郎	ジェムドロップ株式会社 代表取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	ミュージック企業等委員
古木 勝紀	株式会社バンパー 取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	デザイン企業等委員
一瀬 康剛	株式会社アトム精密 代表取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	テクノロジー企業等委員
長畑 芳仁	NPO法人日本ストレッチング協会 理事長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	スポーツ企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野ハートクリニック 事務局長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	医療企業等委員
榑原 直哉	八王子市私立保育園協会 (藤井保育園副園長)	平成28年7月1日～ 平成29年3月31日(9ヵ月)	医療・保育団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 平成28年9月12日

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/17332/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、平成27年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/17332/>

授業科目等の概要

(芸術専門課程 スポーツ健康学科スポーツビジネスコース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			フレッシュアーズゼミ1	社会人として求められるヒューマンスキルの習得を目的とする。	1・前	45	3	○			○			○	
○			フレッシュアーズゼミ2		1・後	45	3	○			○			○	
○			情報リテラシー	ICT(情報通信技術)が普及した「情報社会」から、「メディア社会」への変革期である現在において、社会や生活の場において必要な基礎的な知識と技術について学ぶ。	1・前	30	2	○			○			○	
○			数学基礎	近・現代の応用例を中心に、実学としての数学を理解する。	1・前	30	2	○			○			○	
○			コミュニケーション論	本講義では、対面的な状況でおこなわれる対人的コミュニケーション、新聞やテレビなどのマス・メディアを通じてなされるマス・コミュニケーションと対比するかたちで、コンピュータ・メディアを利用したコミュニケーション(ComputerMediated Communication	1・後	30	2	○			○			○	
○			情報リテラシー演習	:CMC)が及ぼす社会的、心理的影響について検討し、それらを理解するために必要な基礎的概念や理論について習得することを目的とする。	1・後	60	4	○			○			○	
		○	MOS 1	マイクロソフト認定Word資格取得を目標とした、PCの取り扱いに関する基礎知識と操作方法の習得を目的とする。	1・通	60	2			○	○			○	
		○	MOS 2		1・通	60	2			○	○			○	
		○	英語講座 1	英語の口語表現を中心に、自ら発信する英語運用能力の習得と共に、リスニング力にも重点を置いた授業を行う。	1・前	30	2	○			○		○		
		○	英語講座 2		1・後	30	2	○			○		○		
○			スポーツ実技 1	バレーボールやバスケットボールの特性について理解し、年齢別に応じた的確な指導が行える能力を養う。	1・前	30	1			○	○			○	
○			スポーツ実技 2		1・後	30	1			○	○			○	
		○	販売士検定対策講座 1	販売士検定試験に求められる基礎知識の習得を目標とする。	1・前	30	2	○			○			○	
		○	販売士検定対策講座 2		1・後	30	2	○			○			○	
		○	キャリアアップセミナーA	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの資格取得を目標とした短期講座行う。	1・前	90	3			○	○			○	
		○	キャリアアップセミナーB		1・前	30	1			○	○			○	

		○	スポーツイベント概論	商品の販売促進方法の一つとして、顧客との有効なコミュニケーションツールとなるスポーツイベントについて、理論的解説と事例紹介を行う。スポーツイベントがもたらすマーケティング・コミュニケーション効果についても考察を進める。	1・前	30	1					○	○				○	
		○	プロジェクトアサインメント1	目標設定型学習の一環として、地域スポーツイベントの実施に向けたプロジェクトメンバーの一員として大会準備活動に参加します。	1・前	30	1					○	○	○	○	○	○	○
		○	アウトドア実習A	オートキャンプ、カヌー、トレッキング等のアウトドアライフの組立てについて実習を通じて学びます。	1・前	30	1					○	○				○	
		○	キャンプインストラクター実習A	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	1・前	30	1					○	○				○	
		○	マリン実習A	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	1・前	30	1					○	○				○	
		○	フィンワーク実習	プールにて3点セット（マスク、フィン、スノーケル）を使用し、フィンワーク（泳ぎ方、素潜り）技術を養います。	1・前	30	1					○	○				○	
		○	スノーケリング実習A	スノーケリング講習会等のアシスタントとして実習を行います。	1・前	30	1					○	○				○	
		○	初級ダイビング実習	スクーバダイビング「オープンウォーター」資格取得の為に必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。	1・前	30	1					○	○				○	
		○	アウトドアフィットネス1	キャンパス内の地形と施設を利用してアウトドアフィットネスの実習を行います。	1・後	30	1					○	○				○	
		○	レクリエーションスポーツ	スポーツ指導の現場でのレクリエーションの考え方とさまざまな場面での運動方法を学びます。	1・前	30	1					○	○				○	
		○	スタジオプログラム1	スポーツクラブでは主流のスタジオプログラム。パワーヨガ、マットピラティスなどその種類は多種多様です。スタジオプログラムの主要な運動についての知識、技術について基礎を学びます。	1・前	30	1					○	○				○	
		○	スタジオプログラム2	スポーツクラブでは主流のスタジオプログラム。パワーヨガ、マットピラティスなどその種類は多種多様です。スタジオプログラムの主要な運動についての知識、技術について基礎を学びます。	1・前	30	1					○	○				○	
		○	スイミングA	水泳の特性について理解し、レベル別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1・前	30	1					○	○				○	○
		○	エアロビック1	エアロビックダンス技能検定初級レベルの技術の修得とエアロビックダンスの特性について学びます。	1・後	30	1					○	○				○	
		○	スポーツ自由研究A	スポーツに関することを様々な角度から捉え、実態や動向を明確にしその意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・後	30	2	○				○	○				○	
		○	MFCスタッフ実習1	MFC（メディカルフィットネスセンター）スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。	1・前	15	0					○	○				○	
		○	MFCスタッフ実習2		1・前	30	1					○	○				○	
		○	簿記検定対策講座	簿記検定3級資格受験にむけた専門的知識の習得を目標とする。	1・前	30	1					○	○				○	
		○	国内旅行業務取扱管理者講座1	国内旅行業務取扱管理者資格の取得に向けた集中講座を行う。	1・後	30	2	○				○	○				○	
		○	訪問介護員講習	ホームヘルパー2級の資格取得を目標とした講義を行う。	1・後	150	5					○	○				○	

		○	スポーツ・レジャーとライフスタイル	本講義では、「スポーツ＝競技・部活・体育」といったスポーツ全般に対する固定観念や偏見を取り除き、遊びや気分転換も含めたレジャー・レクリエーションの領域について考察を進める。近年のレジャー・レクリエーション産業が直面する課題を取り上げ、映像や画像資料を使用して多角的な考察を進める。	1・後	30	2	○			○									
		○	スポーツマーケティング	本講義では、スポーツ関連商品の販売活動に必要なマーケティング基礎知識の習得を目指す。	1・後	30	2	○			○									
		○	スポーツツーリズム1(基礎)	スポーツを活用した観光やまちづくり、大会・合宿の招致・開催、地域資源を生かした旅行商品化などの取り組みについて学びます。	1・後	30	2	○			○									
		○	スポーツ用品論	本講義では、スポーツ産業を構成する諸産業に分解し、特にスポーツ用品の小売り業に焦点をあて、産業構造、商品特性、流通の仕組みについて解説を行う。	1・後	30	2	○			○									
		○	スキー実習A	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチテストを実施します。	1・後	30	1				○		○							
		○	スノーボード実習A	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1				○		○							
		○	中期インターンA	スポーツクラブ等で中期インターンシップを経験します。	1・後	15	0				○		○							
		○	MFCスタッフ研修	MFCを利用してトレーニングルームの運営方法やクライアントとの接し方、法的問題について学びます。	1・後	30	1				○	○		○						
		○	J検定	情報検定(J検)は文部科学省後援の「情報」を扱う人材に必要とされるICT能力を客観的基準で評価する試験である。本講義ではJ検取得に向けた受験対策を行う。	1.通	60	4				○	○								
		○	企業経営の基礎	本講義では、「企業」の「マネジメント」の全体像を理解するため、企業とはどのような存在なのか、またマネジメントとはどのような行動を意味するのかについて論理的な枠組みを用いて学習を進めます。	2・前	30	2	○			○									
○			現代社会論	近代以降の社会変動を、社会を支える「文化」のあり方に注目し、その歴史的な過程の見取り図を提供する。そして履修者がその知識をもとに今日の複雑な社会のあり方を文化の変化から理解し説明できるようになることを目的とする。	2・後	30	2	○			○									
○			地球環境論	本講義では、社会人となる前の一般的教養として現代社会を取り巻く地球環境問題について取り上げ、産業活動や我々のライフスタイルのもたらす環境への負荷について考え、持続可能な社会とはどのようなものであるべきかについて学びます。	2・後	30	2	○			○									
		○	ソーシャルコミュニケーション入門	本講義では、我々に影響を与えるメディアとコミュニケーションの関係について学びます。マスメディアやSNSなどのネットメディアのメカニズムを解き明かし、それらメディアやそこに含まれるコンテンツが人々の思考や行動に与える影響について考察を深めます。	2・後	30	2	○			○									
		○	インターネットコミュニティ論	本講義では、社会学や社会心理学の視点から、現代のネットワーク成立の過程とコミュニティ形成の仕組みについて学びます。また、ITがコミュニティ形成や地域活動の活性化にどのように活用されているかについても事象を取り上げて理解を深めます。	2・後	30	2	○			○									
		○	英語講座3	英語A I と目的は同じであるが、やや高いレベルのスピーキング力とリスニング力の習得に重点を置いた授業を行う。	2・前	30	2	○			○		○							
		○	英語講座4(OP)		2・後	30	2	○			○		○							

○		サイエンスの世界	サイエンスの世界で起こっている様々な出来事を取り上げ、その真の姿を十分に伝えながら、それらが人間社会にどのような影響をもたらしているか、わたくし達の意識や考え方にどのような変化を与えてきたかなどについて考察する。	2・前	30	2	○		○									
○		スポーツ実技3	陸上、ジョギング・ウォーキングの特性について理解し、年齢別に応じた的確な指導が行える能力を養う。	2・前	30	1			○	○								○
○		スポーツ実技4	体操（マット運動、鉄棒、跳び箱）の基礎技術と指導法を学ぶ。	2・後	30	1			○	○								○
	○	ビジネス検定講座1	ビジネス検定2級取得を目標とした、ビジネスコミュニケーションの基本とビジネスツールの活用について学ぶ。	2・前	30	2	○			○								○
	○	販売士検定対策講座3	販売士検定2級取得にむけた専門的知識の習得を目標とする。	2・前	30	2	○			○								○
	○	国内旅行業務取扱管理者講座2	国内旅行業務取扱管理者資格の取得に向けた集中講座を行う。	2・前	30	2	○			○								○
	○	キャリアアップセミナーC	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの資格取得を目標とした短期講座を行う。	2・前	30	1			○	○								○
	○	キャリアアップセミナーD		2・後	30	1			○	○								○
	○	日本近代史とスポーツの発展	本講義では、日本の近代化とともに進んだスポーツ文化の形成とその変遷過程について学ぶ。アマチュアリズム、オリンピックと国際政治、女性のスポーツ参加、スポーツの商業化とグローバル化などのテーマを取り上げる。	2・前	30	2	○			○								○
	○	スポーツマネジメント概論	本講義では、スポーツビジネスコースでの学習を進める上での基礎知識として、スポーツ産業と関連するレジャー・レクリエーション産業に関する知識の習得を目指す。講義後半では、スポーツビジネスに関わる財務・統計分析や経営戦略の基礎、収益構造及び予算管理の基礎についても触れる。	2・前	30	2	○			○								○
	○	スポーツ・レジャー産業の経営と財務	本講義では、スポーツ・レジャー施設の運営に必要なマーケティング、販売促進、顧客管理、予算管理、コスト管理、プログラム管理、人材教育・管理等の全般的な経営基礎知識について学習する。ゴルフ場、ボーリング場、スキー場等の施設経営に関する具体事例を取り上げ、各施設の持つ運営上の特異性についても考察を進める。	2・前	30	2	○			○								○
	○	スポーツ行政論	本講義では、昨今の日本のスポーツ政策が直面する課題を取り上げ、国内の政治・経済等の現状を踏まえて、スポーツ振興の基礎構築として政府が進める指導者育成、スポーツイベント、スポーツ施設等の政策について理解を深める。	2・前	30	2	○			○								○
	○	社会体育概論	文化としてのスポーツ、社会の中のスポーツ、障害者とスポーツについて学びます。	2・前	15	1	○			○								○
	○	スポーツと地域振興	地域特性を生かし、地域に根ざしたスポーツのあり方を実在の成功例をもとにして学んでいきます。	2・前	15	1	○			○								○
	○	スポーツ組織論	スポーツ組織のマネジメントに求められる組織論の基礎について学ぶ。スポーツ現場という特異な環境において、適切な人材マネジメントとはどのように行われているのかについての成功・失敗事例を取り上げながら各事例に対する成功・失敗の要因分析と考察を行う。	2・前	30	2	○			○								○
	○	スポーツマネジメント・ワークショップ1	最新スポーツトピックに関するグループ研究やディスカッションを行う。	2・前	30	2	○			○								○
	○	スポーツマネジメント・ワークショップ2		2・後	30	2	○			○								○

	○	スキー実習B	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチテストを実施します。	2・後	30	1			○	○	○	
	○	スノーボード実習B	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	2・後	30	1			○	○	○	
	○	中級ダイビング実習	スクーバダイビング「アドバンスダイバー」資格取得の為に必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。	2・後	30	1			○	○	○	
	○	エアロビック2	技能検定5級を目指し、技能検定員の資格取得も目指します。	2・後	30	1			○	○		○
	○	スポーツ自由研究B	スポーツに関することを様々な角度から捉え、実態や動向を明確にしその意義・本質などを見極め理解を深めます。	2・後	30	1			○	○		○
	○	海外研修B	ホノルルフェスティバルへの参加を主体とした国際交流プログラムとして、スポーツ活動やイベント参加を通して現地学生との交流を図ることを目標とする。	2・後	60	2			○		○	○
	○	イベント検定受験対策	日本イベント産業振興協会が認定するイベント検定の資格取得を目標とする。より適切で効果的なイベントを実施するために必要な基礎知識について体系的に学ぶ。	2・通	30	2			○	○		○
	○	企業研究	スポーツマネジメントに精通したゲストを招き、スポーツビジネスに関する総合的知識を養います。また、スポーツビジネスに関わる企業について研究し理解を深めます。	2・通	60	4			○	○		○
合計					83 科目		3885 単位時間(143 単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目間1455時間(56単位)、選択科目245時間(9単位)合計1,700時間(65単位)取得すること。	1学年の学期区分	2 期
	1学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。